

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0770700748		
法人名	株式会社 エコ		
事業所名	グループホーム 楓の郷 1階		
所在地	福島県須賀川市西田町9-3		
自己評価作成日	平成24年7月28日	評価結果市町村受理日	平成24年12月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=07
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人福島県シルバーサービス振興会		
所在地	〒960-8043 福島県福島市中町4-20		
訪問調査日	平成24年9月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>ご家族様とのよりよい関係づくり、信頼の得られる職員育成、働きやすい職場づくりに努め、入居者様が安心、安全に生活して頂ける環境の整備に力を入れて取り組んでいます。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>1. 日頃から利用者・家族の意見・要望等を聞き対応しており、利用者・家族との信頼関係が構築されている。また、職員は利用者の思いに沿って利用者本位のサービスに努めており、利用者にとって居心地の良い安心して過ごせる場所となっている。</p> <p>2. 職員育成体制が整っており、計画的に事業所内研修や外部研修を通して人材育成や職員の資質向上を図り、質の高いサービスの提供に努めている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホーム内に理念を掲示し、朝の申し送り時に唱和し、全職員で理念を共有して、日々のサービス支援を行っている。	理念を事業所内に掲げ、朝の申し送り時に全員で唱和している。新人研修やスタッフ会議の時に理念の再確認をし、利用者支援の実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域住民との交流ができるよう、日々の散歩の時の声掛け、また地域行事への参加などを行い、入居者様も地域の住民の一員であると自覚して頂けるような生活支援に努めている。	事業所の夏祭りや記念行事に地域の人にも来て頂き、ホームからも地域ボランティアの協力を得て、小学校の運動会等に参加をしている。中・高生の職場体験を積極的に受け入れ、介護職を希望した若人たちを職員として採用している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症への理解が得られるように、認知症サポーター養成講座に参加し講師を務めるなど、地域の人々に理解・協力を頂けるように活動を行っている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている	運営推進会議委員の方々より、会議の席上いろいろな意見や協力を頂きながら、入居者様一人ひとりへのより良いサービス提供ができるように活用している。	運営推進会議は各部門から様々な立場の人が参加し定期的に開催されている。ホームの状況を報告し、各委員の経験を活かした意見を受け、協力医療機関を変更し、緊急時に受け入れ可能な体制となったこともその一つである。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	必要に応じて行政を訪問し相談を行い、ホームの現状を説明し、運営がスムーズにできるように、常に協力関係を得られるように努めている。	事業所は常日頃より、認定更新や申請書提出における書類の相談等で行政を訪れている。震災後は、被災者受け入れ等で行政担当者と相談しながら支援につなげた。ホームの実情を伝え協力関係が築けるよう取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修などで知識を習得し、全職員が禁止の対象を理解して、身体拘束を行わないよう、スタッフ会議や申し送り時に再認識を行い、サービス支援を行っている。	身体拘束廃止に関わる研修を受けた職員はスタッフ会議等で伝達研修を行っている。申し送り等で具体的な例を挙げて、確認し合い個別ケアで対応しながら全職員が一人ひとりに寄り添い支援を行っている。日中は玄関の施錠は行っていない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修参加などにより、全職員が虐待にあたる行為等の知識を習得し、防止の徹底に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修により、知識習得の機会は設けているが、現在まで活用の事例はない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・解約時、ご家族様、利用者様に十分な理解が得られるような説明を行い、納得して頂けるように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	来所時に気軽に相談できるような雰囲気づくりに努めるとともに、アンケートを送付し、ご家族様の意見や要望を聞かせるような機会もついている。意見・要望等はスタッフ会議で話し合い、運営に反映させるように取り組んでいる。	利用者がホームでの生活に満足し、楽しく暮らせるよう支援している。また、家族面会の際に日頃の様子を伝え、家族の意見等を聞き取っている。出された意見は運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフ会議に職員の意見や提案を聞く機会を設け、職員が働きやすく、サービス提供がしやすい環境づくりに努めている。	管理者は働きやすい職場環境作りと利用者本位のサービス提供を心掛けている。職員の意見をもとに利用者状況に合わせてユニットごとに早番の勤務時間を見直している。また、管理者は職員との日常の何気ない会話や挨拶を通して、要望や心配事を聞き取りその都度対処をするように努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員一人ひとりの性格や、個々の就労状況の把握を行い、向上意識をもてるような環境づくり、給与水準の見直しなどの整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内・社外研修に参加できる機会を確保している。職員一人ひとりの性格と力量を把握し、一步一步ステップアップできるように取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会やこの葉ネットで情報の交換・交流を行い、入居者様へのサービスの質の向上に役立っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者様一人ひとりが、自分の存在を認めて欲しいという思いを受け止めて、残存機能を活かし、日々安心して生活して頂けるように全職員で話し合いを行いながら進めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居者様のご家族が困っている事、ホームで希望する事等を伺うとともに、ホームで支援出来ることを説明し、安心して利用頂けるように取り組んでいる。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人様の意向を最優先としつつ、ご家族様が望んでいる事も受け止め、職員全員が受容し、理解してサービス支援に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人様の思いを傾聴しながら、信頼関係を築き、安心して過ごして頂けるように心がけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月に1度の手紙や随時の電話により、入居者様の状況やホーム側の介護方針などをお知らせ・相談を行うことで、利用者様と一緒に支えていくための関係づくりに取り組んでいる。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人様が行ってみたい馴染みの場所への外出を企画するなど、関係を継続できるように取り組んでいる。	近隣の馴染みの食事処や量販店での日用品の買い出しには頻繁に出掛けている。昔の仲間だった友人が自転車で訪ねて来たり、馴染みの美容室へも出掛けている。盆、彼岸の时节には家族と一緒に墓参している利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士が共有スペースなどで、お互いの思いを話し合ったり、おやつを召し上がりながら楽しくお過ごし頂けるよう支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も気軽に来所して相談頂ける体制を整えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの生活状況を日々全職員が把握し、月一回のケース会議で話し合い、満足頂ける支援が行えるように取り組んでいる。	耳の遠い利用者には手話でコミュニケーションを図っており、他の利用者の思いや意向の把握にも役立っている。時にはジェスチャーを交え耳元で静かに話をする事で、意思疎通が困難な方もコミュニケーションが図れている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今までの生活歴や馴染みの暮らし方などを職員全員で情報収集して、入居者様が安心して生活頂けるように取り組んでいる。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケース記録や生活チェック表に日々の心身の状態を継続的に記録を行い、把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ホームで月一回ケースカンファレンスを開き、入居者様一人ひとりの現況を話し合っ、何が今必要な支援であるかを確認しあって、家族また関係者の意見を伺い、本人様にとって最良な支援ができるような介護計画の作成に努めている。	利用者・家族の思いをもとに、利用者の身体状況の変化、職員の気づき、必要な時には医師や看護師の意見を取り入れ介護計画を作成している。しかし、介護計画に沿った支援内容の記録等が十分ではない。	介護計画見直し時のモニタリングは具体的なサービス内容を記録した実施記録から確認しているが、ケース記録に実施記録を残す時は計画書を確認し、介護計画の番号と記述内容の相違等がないよう記録して欲しい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	支援を行った結果や気づきなどを個別のケース記録や業務日誌に記録し、朝夕の申し送り時に報告し、職員間で情報の共有化を図り、また介護計画の見直しにも活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	申し送り時の他、必要に応じて職員間で話し合いを行い、その入居者様にとって安心・安全に生活頂けるような支援を状況に応じて行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボール体操、スポーツ民謡等のボランティアの定期的な訪問や、公民館での行事の参加など、地域資源の活用を行い、楽しく過ごして頂けるように支援を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人様やご家族の意向に合わせて、受診できる体制を整えている。	事業所開設当初、利用者のかかりつけ医に夜間帯での救急対応が受けられなかったため、夜間帯でも対応可能な医師での受診支援を行っている。利用者・家族の希望で今までのかかりつけ医を受診している人もいる。受診結果は、毎月、文書で家族に知らせている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者様の心身の状態に変化が見られた場合など、看護職員に報告・相談を行い対応を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	受診や面会の機会等に医師や医療関係者と情報交換、関係づくりに努め、入退院が円滑に行えるように取り組んでいる。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に本人様やご家族様に終末期の意向の確認を行っている。また、看取り介護実施前にもご家族様に意向を再度確認し、ケアを行っている。	医療連携体制加算を取っており、入居時に事業所の指針を説明し、利用者・家族の同意を得ている。また、利用者・家族の終末期の意向等(事前確認書)を確認しながら対応している。ターミナルに向けて職員研修を実施し、精神的なケアも行いながら看取りを実施している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に訓練を行い、対応できる体制を整えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署立ち合いでの総合の防災訓練を行う他、毎月ホーム独自に計画した防災訓練を実施している。	年間の防災訓練計画に沿って、毎月訓練を実施している。震災後は、地震の訓練回数が増えたが、火災の訓練も行っている。さらに、毎年、職員が交代で消防学校での夜間帯の避難訓練を体験している。隣に住んでいるオーナーはじめ、地域の人達の協力体制が構築されており、備蓄(食品・水・防災頭巾等)も準備されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様の性格、生活状況を把握し、プライドを傷つけないように声掛け、対応を行っている。	利用者のプライドを傷つけないよう、言葉掛けをする場合には利用者一人ひとりに合わせた対応を行っている。うまく支援できない時は複数の職員で工夫しながら対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様が日常の中で思いを話すことができる雰囲気づくりに心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様の日々の生活を優先し、希望に添った支援ができるように取り組んでいる。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出時などに、本人様の希望を伺いながらおしゃれができるように支援を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている	入居者様の希望を把握したうえで、月に1、2回外食の機会を設けている。	食事に関する流れの中で利用者の出来ること(買い物・調理・下膳等)は手伝ってもらい一緒に行っている。利用者の好みを献立に取り入れ、食事が楽しめるよう職員も一緒にテーブルを囲み、会話をしながら支援している。また、毎月、お弁当や外食の機会もあり、食事が楽しみの時間になっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分の摂取量をチェック表に記入し把握を行っている。必要に応じて、定時の水分補給以外にもこまめに水分を摂って頂くなど、個別の対応も行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後や就寝前に口腔ケアを行って頂けるように声掛けを行っている。また、必要に応じて介助を行なっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個別的に排泄パターンや尿意・便意のサインを把握し、トイレ誘導を行うことで、失敗を減らすことができるように取り組んでいる。	排泄状況を記録し、排泄パターンを把握している。排泄のサインに合わせてさりげなく声かけし、トイレで排泄出来るよう支援している。便秘予防に水分の摂取や体を動かすなど工夫をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日、排便の有無のチェックを行い、便秘の予防に役立てている。体を動かすことや、水分を十分にとる事により、自然な排便ができるように心がけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人ひとりの希望に添って対応し、安心して入浴を楽しめる雰囲気づくりを行っている。	利用者の希望を聞きながら入浴支援を行っており、お風呂場で会話をしながら入浴が楽しめるよう支援している。拒否する場合、声掛けに工夫しながら対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入床の時間が一人ひとり違うので、個別に対応して、眠れないような時は、少し話をしたりと安心して休んで頂けるように取り組んでいる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	外部の薬剤師に講師になって頂き勉強会を開催するなど、薬の作用の理解ができるように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	調理の下準備や掃除、食器拭きなど、利用者様のできることに合わせて、行って頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	日々の散歩の他、行事などの機会に外出を楽しめるように支援している。	日常的に近隣の散歩や買い物等に出掛けたり、毎日外気浴等も行っている。家族と墓参り・温泉旅行・外食に行ったり、事業所の行事で紅葉狩り、菊人形・ボタン園見学、外食等に出掛けており、外出が利用者の気分転換の機会になっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	支払は職員が行っているが、好きな物を選び、買い物を楽しむことが出来るように支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	月に1度入居者様各々の生活の様子をお知らせする他、本人様の希望に合わせて電話や手紙で連絡できるように支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	快適にお過ごし頂けるように、温度やテレビの音量、窓からの日差しに配慮を行っている。また、その時々時期に合わせて、ホール内の飾り付けを入居者様と一緒にすることで、季節を感じて頂けるように支援を行っている。	共用空間は利用者にとって心地良い空間となるよう温度・湿度・日差しの強さ等に気を付けている。季節ごとに掲示物を利用者と一緒に飾り季節感が感じられるよう支援している。居間には、テーブル・椅子、ソファ、畳コーナーがあり、玄関前や2階の階段前にはイスを置く等、一人ひとりが思い思いの場所で過ごせるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人、または気の合う入居者様同士で過ごして頂けるような場所を確保し、安らぎの得られるような支援を行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている(小規模多機能の場合)宿泊用の部屋について、自宅とのギャップを感じさせない工夫等の取組をしている	出来る限り環境の変化が少なく済むように、また、本人様にとって一番落ち着く空間となるように、以前過ごしていた場所にあった馴染みの小物や家具、写真などを本人様やご家族様と相談の上、持ち込んで頂いている。	家族の協力を得ながら今まで使っていた馴染みの物(仏壇、碁盤、ぬいぐるみ、ラジオ、植木、テレビ、携帯電話、テーブル、いす、タンス、家族との写真等)を持ち込んでもらい、利用者一人ひとりが安心して過ごせる環境となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	共用空間は段差をなくすとともに手すりを設置し、歩行が多少不安定であっても安全に移動する事ができるように配慮している。個人の居室にも必要に応じて手すりを設置し、自らの力を使いながら安全に移動する事が出来るように支援を行っている。		